

1.計画名称

**茅野市ICT活用戦略**

2.計画全体の進捗状況及び総合評価

進捗評価	おおむね順調	説明	・コロナ禍の感染拡大防止の対応として、小中学生の体温を毎日学校へ報告するアプリの導入や、リモート会議環境及び、Wi-Fi環境等のICT基盤の設備構築が進んだ。
今後の重点化施策番号	3	説明	・個人番号制度の導入を契機に、情報システムの効率化に取り組む。 ・オープンデータや新たなICTの活用により、住民の利便性の向上に取り組む。

3.各施策等における評価内容と改革改善

区分	施策名称	進捗評価	総合評価		改革改善の具体的内容
			主な取組内容や成果	課題	
1	市民生活・教育環境の充実・向上	おおむね順調	①小中学校で1人1台使用できる端末の導入により、ICTを活用した教育の発展が実現した。 ②市民向けスマホアプリ、「LEBER for School」「のらざあ」を導入し、利用者の連絡や申請方法の利便性が向上した。	①子どもたちへの教育において、ICTを活用した学びの創造や情報の主体的な活用のため、保護者の理解と教員の育成。 ②乗合オンデマンドサービス「のらざあ」アプリの普及率。	①教員のICT教育のスキルアップに向けた研修を充実させる。 ②乗合オンデマンドサービス「のらざあ」アプリを普及させるため、NPO法人と連携しスマホ教室にて認知度を広めていく。
2	公立諏訪東京理科大学等との連携による、産業育成と雇用創出	おおむね順調	①コワーキングスペースを拠点とした交流の機能が整備され、様々な世代に多様な働き方や関わり方による利用が定着してきている。 ②スワリカブランド創造事業を契機に産学公連携プロジェクトのモデルが構築され、ICT、IoTを活用した事業化、人材育成につながった。 ・産学公連携によるスワリカブランド創造事業によって得られた成果を社会実装することを目的とした事業発ベンチャー「36iCT株式会社」が設立された。	①コワーキングスペースの認知度向上や新たな利用者の拡大に加え、様々な活動を担う人材の確保と育成。 ②今後の技術革新や地域課題の解決に資する産学公連携による取組、その成果の活用や携わる人材が地域で活躍していく持続的な仕組みづくり。	①担い手不足が深刻化するなかで、特に女性の働き方の多様化、若者の活躍機会の創出に対応していくために、ワークラボハケ岳を拠点とした更なる人材交流を進める。 ②地域の防災力の向上に寄与する研究成果の事業化に向けた取り組みを強化する。
3	行政サービスの利便性向上、情報セキュリティの確保と業務効率化	おおむね順調	①マイナポイント事業の推進によりマイナンバーカードの普及がおおむね順調に進んだ。 ②庁外の関係者との会議や打合せ等に使う、連絡用ツールの充実が進んだ。	ICTを積極的に活用し、行政手続きなど、より市民に利便性の高いサービスの提供。	①行政サービスの利便性向上のため、キャッシュレス決済の導入や、マイナンバーを利用し、申請者が書類に書かなくてもよいシステムの検討。 ②管理職以外のテレワーク用端末導入によりペーパーレス会議の充実につなげていく。
4	戦略的な情報発信とオープンデータの提供	おおむね順調	Fun!Yatsugatakeのスタートにより、より多くの市に関連する情報発信を行うことが出来た。	閲覧数を増やすため、情報発信の手段、内容の充実。	①市外、若者向けに特化した動画チャンネルによる更なる情報拡散。 ②SNSを連携させた情報拡散と利用媒体にて、魅力あるコンテンツの検討。

※5つ以上の場合は裏面へ

4.関連市民団体等の主な意見及び対応のポイント

	主な意見	市の考えや対応など
関連市民団体等名称		
開催回数		
参加延べ人数		
関連市民団体等名称		
開催回数		
参加延べ人数		